

# 令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 今田小学校

## 1 学校教育目標等

ふるさと今田を愛し、やさしく、たくましく生きる今田っ子を育む  
～今田が大好き！楽しい今田小学校をみんなで作ろう～

## 2 今年度の重点目標

「学ぶ」 … 自分の言葉で整理して伝える学び・対話を通して高め合う学び  
「整える」 … 学びに向かう姿勢・学びを支える環境  
「つながる」 … 肯定的評価を大切にしたい集団・豊かな人間関係・地域へ発信する活動

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学ぶ (学習指導)	特別支援教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議や委員会等で、学級や児童について共通理解し、職員全員が意識して取り組むことができた。</li> <li>サポートファイル、個別の指導計画を活用し、本人・保護者との共通理解のもと、きめ細かなアセスメントを行った。必要に応じて見直しを行いながら、個に応じた指導内容や方法を工夫した。</li> </ul>
	見通しを持ち表現する学習と家庭学習への支援	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールを明確にした授業づくりを常に意識し、取り組んだ。</li> <li>研究テーマ「書くこと」を意識し、言葉で表現する活動を学習に取り入れた。</li> <li>対話をしながら整理し、言葉で表現する学習をすることで、児童の生き生きとした活動につながっていた。</li> <li>学校での指導、家庭の見守り、家庭学習の手引きの活用等により、家庭学習の習慣を定着させていく。</li> </ul>
	情報活用能力の育み	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書通帳、全校読書の日、職員読み聞かせ等新たな取組をした。児童の関心・意欲が高まってきたと感じる。</li> <li>情報機器の活用については、学年や教科によっての差が課題である。発達段階に合わせて活用が進められるように、今後も環境を整えたり研修をしたりしていく。</li> </ul>
整える (生活習慣・環境づくり)	学びに向かう姿勢の確立	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員から元気よくあいさつしたり、児童会あいさつ運動を行ったりするなど、積極的な働きかけができた。</li> <li>教職員間で共通理解を図り、朝会での集まり等、時間を守って生活する働きかけや声かけができた。</li> <li>今年度からたてわり班掃除を取り入れたが、高学年のリーダーシップ育成、低学年の掃除力向上につながった。今後も継続し、全体から個々の整理整頓整する意識の向上につなげていく。</li> </ul>
	安全安心で学びに集中できる環境づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の校内安全点検後には、気になる箇所への対応が速やかにできた。</li> <li>学校設備の安全は、児童だけでなく教職員、保護者、地域の方等のすべての安全につながると認識し、今後も速やかな対応を継続していく。</li> <li>廊下や階段を走る児童が多い。廊下や階段を歩くことを学級や朝会で指導するとともに、職員が足並みをそろえて指導していく。</li> </ul>

	体と心をコントロールできる力の育み	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育の学習や体育的行事において児童が運動する機会を確保することができた。また、それによって体力・運動能力の向上に努めることができた。</li> <li>・ 各学年に応じた食育を推進することによって、食生活に関心をもつ児童も増え、体と心の安定につながることができた。</li> </ul>
つながる (地域とともにある学校づくり・生徒指導)	ふるさと教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年に応じて地域と関わり、積極的な体験をした。地域を知り、地域に関心を寄せる取組ができた。</li> <li>・ オープンスクールや学習発表会等の機会を通して、学びの成果を発表し、児童自らが今田の良さをふりかえる機会となった。</li> </ul>
	道徳教育・人権教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての教職員が共通理解し、教育活動全体を通じて、基本的なルールを守ることやみんなが気持ちよくなる行動することなど児童の指導にあたるようにする。</li> <li>・ 異学年間では、下学年に優しく接する児童が多い。このようなよさを生かす場面を多く設定し、自分も周囲も大切にすることを育んでいく。</li> <li>・ 児童の長所を褒め、頑張りや成長を認め、自尊感情や自己有用感を高めていく。</li> </ul>
	生徒指導における協働体制の確立	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員会議での児童理解、職員打合せ、生活アンケートの共通理解など、頻繁に職員間で共通理解する機会を持ち、未然防止、早期発見、早期対応に努めた。</li> <li>・ 未然防止を第一と考え、学級や縦割り班での活動や委員会活動、クラブ活動などを活用し、温かい人間関係づくりを積極的に支援していく。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・ 児童にとって大切なところを重点目標として設定できている。
- ・ 重点目標を意識して先生方が取り組んでいることが学校評価からうかがえる。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・ 先生方がよく児童を見て、児童にあった指導をしていただいている。学校評価によると少し課題があるところもあるが、連携や工夫をして今後も引き続き、取り組んでいただきたい。
- ・ 登下校のとき、元気よくあいさつをしてくれる児童が増えてきている。地域で元気のよい声が聞こえるのは大変嬉しい。あいさつやコミュニケーションをとれる児童がどんどん増えていくことを願っている。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学ぶ (学習指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生方の読み聞かせや図書委員会の活動、図書館との連携など工夫した取組をされているが、情報機器の存在があたりまえのようになっている現在、読書の減少はしかたない。取捨選択する力が必要だろう。</li> <li>・ 学習習慣が身についてきた児童が増えていることはよい。定着する児童が増えるように、今後も工夫した取組や家庭との連携を大切にしていきたい。</li> </ul>
整える (生活習慣・環境づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整理整頓についての項目で、児童と保護者との評価に差がある。学校と家庭との整理整頓状況が違うのかもしれない。学校だけではなく家庭での実践についても促していきたい。</li> </ul>
つながる (地域とともにある学校づくり・生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己肯定感が低い児童がいることが気になる。児童の個別面談や日常の肯定的評価を継続し、児童の自己肯定感を高めてほしい。</li> <li>・ 児童が楽しく学校へ来れていることはうれしいことである。学校教育目標にもあるように、今後も、児童が楽しいと思える場面がより多くある学校であってほしい。</li> </ul>